

道徳科学習指導案

令和4年2月8日1年B組
授業者 八王子市立宮上中学校
主幹教諭 海老澤 宏

- 1 主題名 「良心の声を聞いて」
- 2 内容項目 D よりよく生きる喜び
- 3 教材名・出典 「撮れなかった一枚の写真」 (光村図書)「きみがいちばんひかるとき」
- 4 ねらい

シャッターチャンスに指が動かずプロとして失格だと数ヶ月も後悔する主人公が、やがてそれでよかったと思うようになる。主人公の行為の意味を問うことによって、良心の声に耳を傾け、自分の弱さ醜さを乗り越えて、人としてよりよく生きる判断力を高める。

5 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の意点
導入	1 ピューリッツァー賞について知る。 ICT 活用 (★)	○ピューリッツァー賞はどういう写真に与えられると思うか。 ★受賞写真などを画面に提示 ・すごい写真。 ・心を打つ写真。	・教材への導入とする。 ・写真に込められた思いやメッセージが大切だと気付かせる。
展開	2 教材「撮れなかった一枚の写真」を読み、考える。 3 筆者が思い至ったことについて多面的・多角的に考えを深める。 4 よりよく生きようとする心について深める。	○どこが印象に残ったか。 ・写真を撮れなかった場面 ・母が子供をかくすところ ○「絵になる。」どんな気持ちでシャッターに手を掛けたのか。 ・すごい。 ・有名になれる。 ・売れる。 ・賞がとれる。 ◎どうして撮れなかったのか。 ★Forms ・かわいそうだから ・母親が嫌がっているから。 ・母親の不安、怯えを感じたから。 ・残酷だから。 ・戦争の悲惨さ、栄養状態や環境の悪さに圧倒されたから。 ・自分の心の醜さを感じたから。 ・良心の呵責を感じたから。 ・スクープより大切なものがあるから。 ・母子の人間性を否定する行為だと考えたから。 ・母子の人間としての尊厳を考えると撮ることは人間として許されないことだと考えたから。 ○「普通の人間でありたい。」どんな人間でありたいのか。 ・素直な気持ちを一番大切にする人間 ・弱さ醜さや世間の評判に振り回されない人間 ・自分に恥ずかしくない在り方を目指す人間 ・ひとりの人間の尊厳を大切にする人間	・教材を範読する。 ・範読後、感想等を交流し、印象に残った場面から課題設定をする。 ・理由を必ず聞く。  ・数名の考えを聞き、主人公の心情だけでなく母親の思いや背景にも触れ、改めて多面的・多角的に考えて自分の考えをタブレットに書き、指名などにより共有化を図ることで考えを深めさせる。 ・問い返して考えを深めさせる。 ・人間の尊厳の大切さに気づかせる。
終末	5 よりよい生き方について考えたことをまとめる。	○今日の学習を通して自分なりに考えた「よりよく生きようとする心」について整理しよう。	・ワークシートに今日の学習を終えて考えたことを整理し、交流する。

6 評価

- ・良心の声に耳を傾け、人としてよりよく生きることについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させて考えた発言や記述が見られたか。
- ・良心の声に耳を傾け、人としてよりよく生きることについて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めて考えた発言や記述が見られたか。

■主題設定の理由

人は時として自分に自信がもてず誰かを羨んだり欲望に駆られて自分勝手な行動をとったりする。良心の声に耳を傾けられず、してはいけないと知りつつ他人の嫌がることをしてしまったり自己の利益を優先させてしまったりもする。そんな時「それでいいのか。」と自分に問いかけることは極めて重要である。

本教材は写真家の話であるが、写真によるプライバシー侵害の問題は以前からあった。それが SNS の普及により急速に被害が拡大し低年齢化グローバル化するようになった。情報化社会の中、人が安易にデジタルデータ化され、その画像や情報がただの対象物として売り買いされることもあるが、勝手に売り買いされる人にも心がある。人間の弱さ醜さに向き合い、人としてのあり方に悩みながらよりよく生きようとする心について考えさせたいと願い、本主題を設定した。

■指導の工夫

①対話と ICT

道德授業は、道徳的諸価値の理解を基に、多様な見方・考え方を出し合い、人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりの視点から、社会における人間のあり方について自覚を深める。対話はそのため有効な一つの手段と考える。

また、ICT の特性として、匿名性と統計処理の速さが挙げられる。意見が発信しやすく全体の傾向を把握しやすい一方、考えが自分中心や他人事になりやすい側面もある。個人の「発信」を「みんなで考える」に転換し「対話」にもち込むことで、道德授業における効果を期待したい。

②授業構成；ICT と言語活動

導入でピューリッツァー賞について写真などを見せ、写真を志す者にとっていかに憧れであるか示し、教材への導入とする。

内容を整理し中心発問で Forms も活用して「自分の考えをもつ」→「意見集約」により興味・関心を高め、対面でも話し合うことで考えを共有し深める。最後の振り返りの時間にはじっくり一人で考えさせたい。聞く→読む→話す（共有）→書く、を基本の流れとして、ICT による「自分の考えを発信」「集約し見る」を絡め、考えの深まりを期待する。

③教材について

筆者がフォトジャーナリストを名乗り、ベトナムで取材旅行をした時の話である。1組のしゃがみ込んだ母と子の姿をミレーにも匹敵する美しい絵としてレンズに収めようとして、指が動かずシャッターを押せない。プロとして失格だと後悔する筆者だったが、それでよかったと思うようになる。筆者の心の変容から、人間として生きることの大切さについて考えることのできる教材である。

④中心発問と問い返し

なぜ撮れなくてよかったのか、筆者は何を見て何を感じどんなことに気づいたのか。撮れなかったという事実は変わらないのに筆者の受け止め方はまるで変わる。そこを中心に問う。出された意見を問い返しながら多面的・多角的に考え、そのやりとりで主題が深まればそのまま進め、意見交流する中で考えを共有し、ねらいとする価値についての考えを一層深めていく。じっくり考えるため十分な時間をとれるよう配慮する。

■板書計画

「撮れなかった一枚の写真」

・母子の姿

・撮れなかったところ

私

母

仲間

撮りたかった→撮れなかった→信じている

・賞がほしい

・有名になりたい。

・戦争の悲惨さ

を訴えたい。

・かわいそう。

・体が固まった。

・こわい

・うらまれるかも。

・こんなことしていいのか

・母が嫌がっていた。

・本人の承諾を得ていない。

・ひどい自分になりたくない。

・ハッとした

から。

・自分の心の醜さに気づいたから。

・後悔するから。

どうして撮れなかったのか。

・残酷だから。

・人として撮ってはいけない。

・かわいそう。

・スクープより大切なものがあるから

普通の人間

・素直な気持ち

・自分に恥ずかしくない

・人を愛する

・母の心に打たれたから。

・本人の気持ちが一番大切だから。